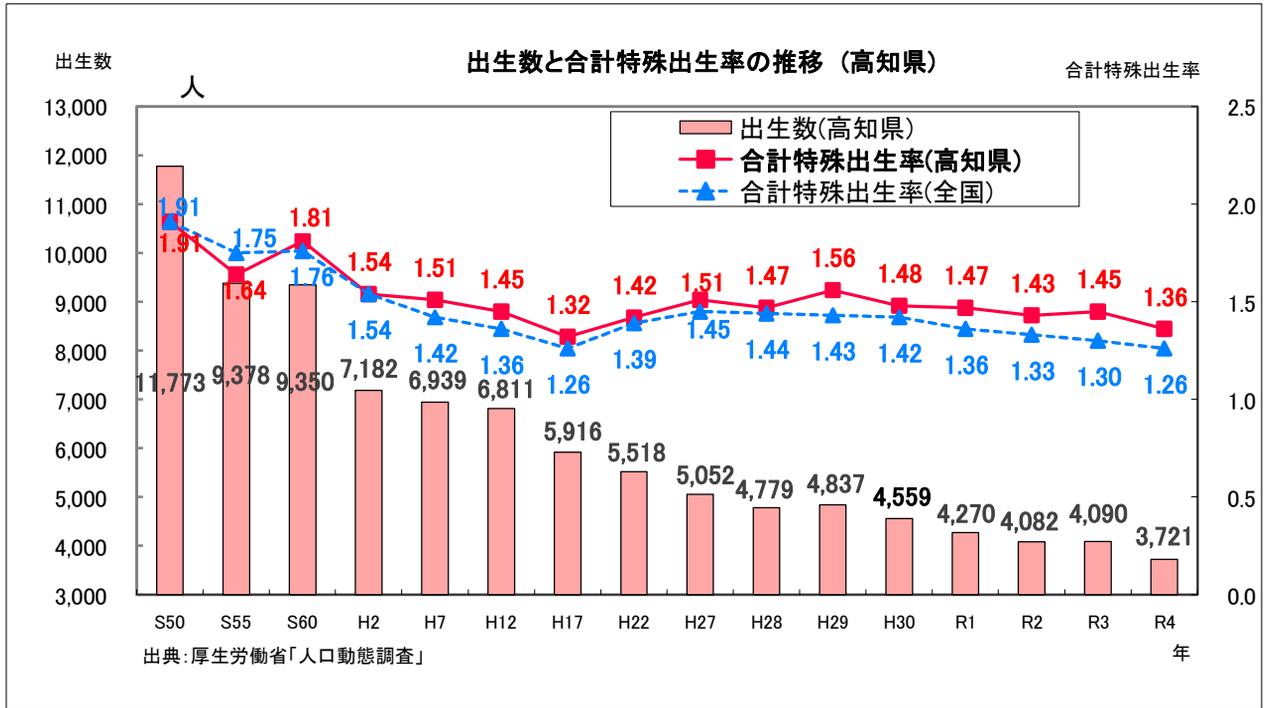


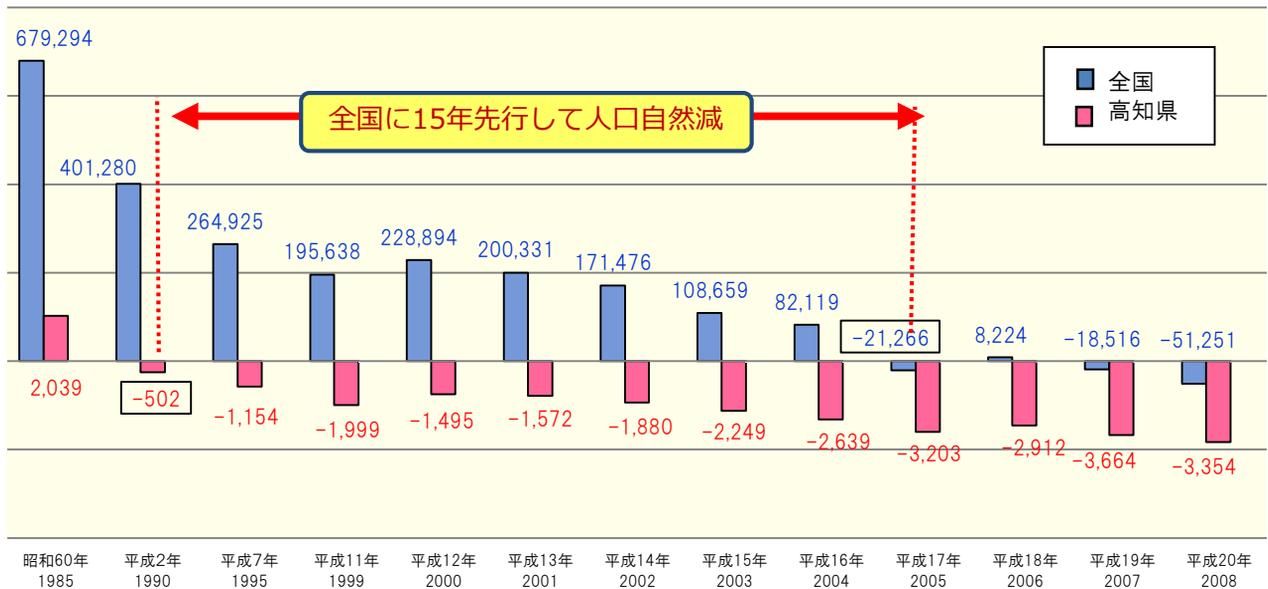
高知県の少子化の現状について (1/2)

出生数・合計特殊出生率の推移



本県の出生数は、1975年（昭和50年）の11,773人から2022年（令和4年）には3,721人に減少している。また合計特殊出生率は、2009年（平成21年）の1.29を底に、ここ数年は1.4台で推移していたが、2022年（令和4年）は1.36となり、2021年（令和3年）を0.09下回った。

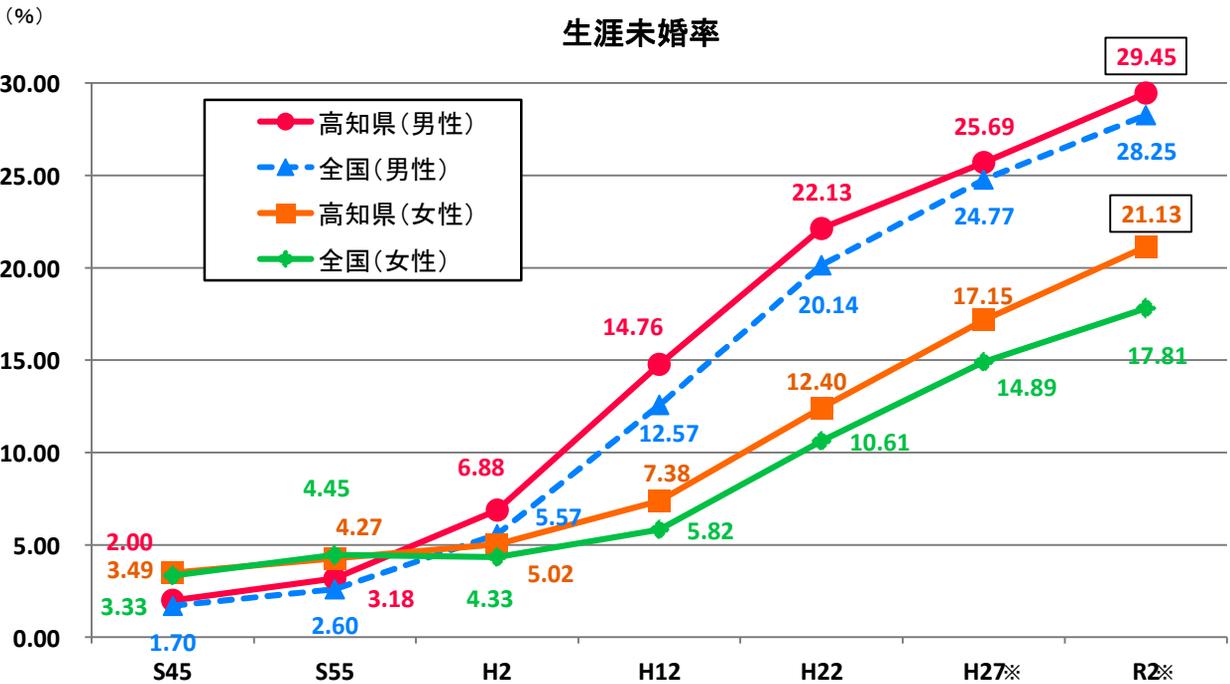
人口自然増減数



本県は、1990年（平成2年）に全国の都道府県で初めて死亡数が出生数を上回る自然減となった。全国の人口が初めて自然減となったのは2005年（平成17年）であり、本県は全国に15年先行している。

高知県の少子化の現状について (2/2)

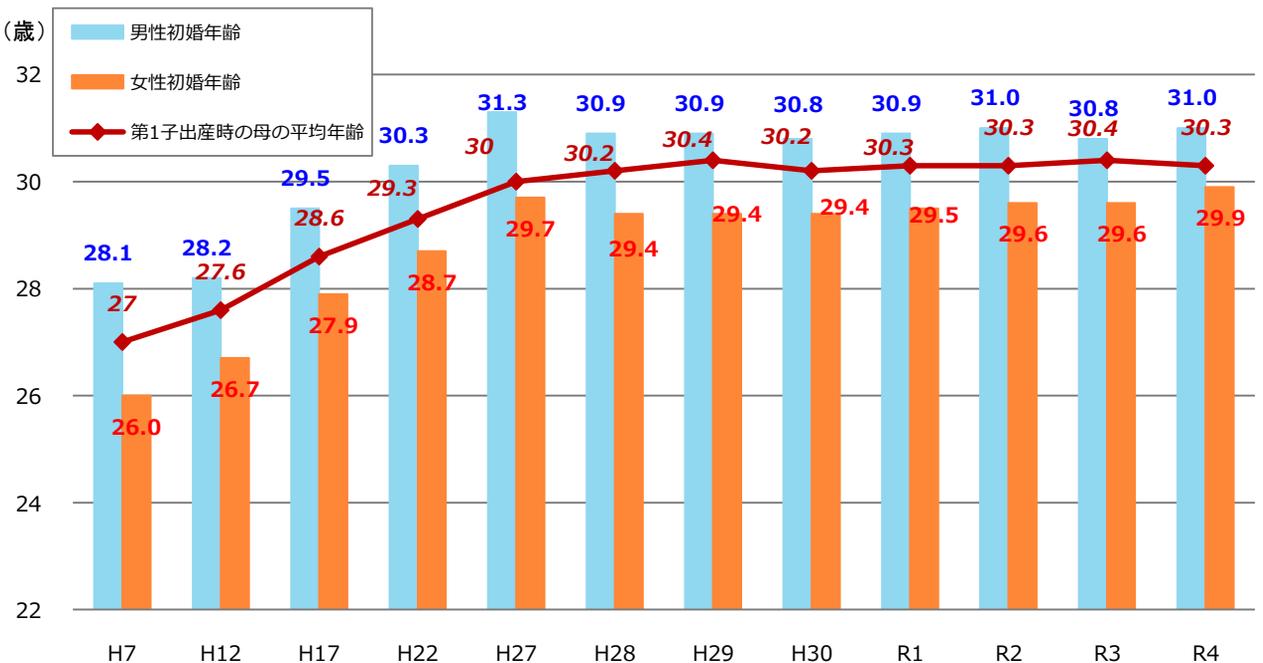
50歳時の未婚割合の推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」
※配偶関係不詳補完結果に基づく

本県の50歳時の未婚割合は、上昇を続けており、2020年（令和2年）で男性が29.45%と約3割、女性が21.13%と約2割が、50歳時点で未婚となっている。

平均初婚年齢と第1子出産時の母の平均年齢の推移



出典：厚生労働省「人口動態調査」

本県の平均初婚年齢は、30歳前後で推移しており、2022年（令和4年）は、男性が31.0歳、女性が29.9歳となっている。また、第1子出生時の母親の平均年齢は、高止まりの傾向にあり、2022年（令和4年）においては、30.3歳となっている。